

高校本科3年の皆さんおはようございます。3月の修了式では、普通の高校生から受験生になるにはそれ相当の覚悟が必要であり、甘えを捨ててきちんとした対策をしなければ行きたい大学へ行けなくなると、かなり厳しい話をしました。君たちは春休みの期間、どのように過ごしたか振り返ってみてください。受験生に脱皮できましたか？自分を成長させ、目標突破に向けて努力をしていくのは、親でもなく、先生方でもなく、自分自身であることをもう一度思い出して下さい。

さて、昨年1年間は、新型コロナウイルス感染症対策のため、いろいろな制約があり、窮屈な1年間でした。そして、新型コロナウイルス感染症は日本で、世界中でまだまだ拡大しています。これまでの日本の感染者数は49万人、亡くなった方は9000人を超えました。全世界の感染者数は1億3000万人を超え、死亡者数は300万人を超えています。ワクチンの接種もなかなか進まず、東京と首都圏エリアでは陽性者の数は減らず、非常事態宣言を解除した大阪や兵庫では再び拡大していることを考えると、私たちは油断すること

なく感染防止に努めることが求められます。感染防止に対しては自分や家族の生命と健康を守るだけでなく、友達や学校を守ることであることをきちんと理解して日々感染防止を怠らないで下さい。

この感染症の拡大を目の当たりにして、現代の人々の活動や経済がいかに国境を越えたものとなっているのかを、皆さんも理解したのではないのでしょうか。オリンピック・パラリンピックが1年延期され、今年の開催も混とんとしているのを見ても分かると思います。この危機の特徴は、世界各地で同時に起きているということです。オリンピック・パラリンピックには外国からの観客は受け入れないことがすでに発表されました。世界中の国が鎖国状態になっています。どうすれば食い止めることができるのかが見えない中で不安が広がっています。君たちがやらねばならないことは、自分の行動を変えることです。このコロナ禍において君たちが前向きに努力し、いろいろな面で成長することが求められます。君たちの先輩である今年の卒業生は、先の見えない長い、長いトンネルの暗闇の中で、出口に向かって歩き続け、素晴らしい結果を出しました。君たちもコロナの渦中にいることには変わりはありません。まだまだ暗いトンネルの中です。でも、出口のないトンネルはありません。出口に

向かって一歩一歩、歩き続けなければなりません。

最後に受験生として大切なことを一つアドバイスします。それは、「当たり前のことを当たり前に行えるようになる」ということです。私は、長年進路指導をやってきましたが、当たり前ができる生徒ほど、成績も伸びてきて大学にも合格していくと知っています。おはようと朝の挨拶が当たり前に行える。ありがとうと感謝の言葉を言える。いただきます、ご馳走様ときちんと言える。行ってきます、ただいまと明るい声で言える。遅刻をしない。服装がきちんとしている。チリが落ちていたらひろう。昨今では、学校に入るときには検温をする。教室に入るときには消毒をする。密にならない。大きな声で話さない。授業がきちんと言えられる。どれもこれも当たり前のことです。当たり前ができるのと、成績が伸びて、大学も合格していくのは何故でしょう。それは、精神力が付き大人になること、素直な心が育つことが挙げられます。授業で先生が言っていることを理解しようと前向きに授業に臨みノートをとったり線を引いたりする、試験で問われていることが理解でき、何をどう答えればいいのかを考えて答案用紙に書く、いずれも、相手とコミュニケーションしていることになります。コミュニケーションに

においては、まず相手の言うことを理解しなければ、こちらから何を言っているかわかりません。こちらの主張ばかりしていても相手は理解してくれません。言葉のキャッチボールが必要です。まず、素直に相手がいいたいことを理解することが大切です。推薦入試の小論文にしても、面接にしても、相手が何を求めているかが分かればきちんと答えは出てきます。授業とは先生が何を言いたいのかを理解すること、試験とは、試験問題を作った人と会話することです。もう一つ、試験会場は異常心理の正解です。孤独で不安な時間です。そんな異常心理の時間の中でいち早く自分自身を取り戻り、自分の力を発揮できるのは、精神力が強い人です。試験では、ポテンシャルエネルギーを運動エネルギーに変えることが求められます。自分の家庭生活や社会生活、そして学校生活において精神力、素直な心を養うことを日々心掛けることが受験生としてとても重要です。

以上、君たちが今日から、当たり前のことを当たり前に行えるように健康で真面目に努力することを期待して、始業式の式辞とします。